

冬を着る

加藤 玲子 (北海道ドレスメーカー学院旭川分院)

豊かな衣生活・・・この言葉の中には、色々な意味が含まれていますが、その一つには被服の材料が自然のものから人造のものへと移行し、合理化され、衣生活は大きな革命を起こしたことにありましょう。特に防寒のための材料は人造繊維の出現により、軽くて、暖かく、しなやかで耐洗濯性・・・等と幅広い利点が、今日のような防寒衣料を生み出していることです。一昔前までは、防寒衣料と言えば綿、木綿、カボック、パンヤ、絹などの天然繊維に、いかに保温性や含気性をもたせるかと言うテクニック（刺し子、キルティング等）を用いたものです。これらは保温性があっても、重いと言う難点がありましたが、科学技術の進歩によって、軽、淡、快（軽く、シンプル、自由）と言う、すばらしい繊維が使用される今日になった訳です。

①防寒の目的と条件

1. 保温性 2. 暖性 3. 機能性 4. 経済性 5. 実用性 6. 合理性
7. 耐久性 8. 審美性

等の条件を考慮したもので、寒さから身を守り、快適な服装をつくり出すことが北国に住む私達の理想的な衣生活となるでしょう。

②防寒衣服は主として、外套を取りあげますが、北欧と比較してみまして、ファッション性を主流にする日本と実用本位に伝統的である北欧の差が、実感としてみられることです。例えば、コート類にしても、ほとんどの婦人はウールのコートを着、毛皮のコートは外出着くらいに考えているし、流行だからと言って一年ぐらいで着捨てなどほとんどなく、部分的な扱いによって上手に変化をもたせて、楽しんでいる。ウールのコート一枚着ることも、保温性として良いことですが、更に重ね着（レイヤード・ルック）をすることをおすすめしたいのです。コートの重さに更に重ね着となると重くて、と心配するでしょうが、前記の化学繊維の軽く、薄く、保温の面からその素材を選び、スタイル画のようなデザインのものををはおるのです。これはどんな体型にも、どんなコートの上からも調節自由で、空気層もあり、暖かいものです。更に吹雪にはフードとフェイス・ウオーマーをあてると完全な防寒となるのです。持ち運びにも便利のように一重仕立ての簡単なもので、ファッション性にも富み、実用的と考えます。ウールのコートに部分的な扱いと言うのは、帽子であり、マフラー（毛糸・毛皮）、ネック・ウオーマーであるのです。

③帽子

帽子は外套には欠くことの出来ない必需品としてほしいものの一つです。服装全体のバランスが良くとれることと、ファッションナブルなこと、防寒としても最も暖かいもののなのです。帽子は似合わないからとか、難しいからとか、ヘヤー・スタイルがくずれるから、と言う理由で帽子を被らないようですが、帽子は被り慣れますと、一日たりとも被らずにいられない程必需品であることが分かるはずで、この冬はオシャレと防寒のためにも是非おすすめしたいのです。

靴

冬靴の条件となりますと、暖かい、軽い、防水（耐水性）、デザイン（オシャレ感覚）、滑

らない、などの点があげられますが、今年の流行ですと言われて見た靴は、夏靴（パンプス）の底に滑り止めをして、冬靴として店頭に並んでいることです。ブーツがようやく北国の靴として定着していたはずなのに、何と言う現象なのでしょう。まったく驚くのみです。ブーツはかかとも程良い高さで安定感がある。中にはボアーがはってある、歩いても履き良く、雪の大地をしっかりと踏み込んで歩くものがほしい。流行に追いつけられて、流行に惑わされずに足元をしっかりと地につけてほしいのです。

④毛皮

昨今は毛皮のコートをはおっている女性が多く、目立っております。経済的にもゆとりのある豊かさがうかがわれますが、北欧の毛皮製品と日本の製品とを比較しますと、はおると着るとの違いがあります。オシャレとしての毛皮のコートにはゆとりがなく、毛皮のコートはおっているものという感覚からデザインされ、カッティングし、縫製されている感があります。北欧の毛皮のコートは、防寒として着ることを目的としたゆとりです。日本では毛皮が流行したからと言って着ますが、その毛皮のコート一つを選ぶにしても、はおるコートではなく着るコートを選ぶことが必要なのではないのでしょうか。

編物

毛糸は冬には欠かせない素材の一つでしょう。軽く、暖かく、手軽で、誰でも簡単に編むことが出来、色々な用途に活用されます。セーターなどは、素編みより編み込み模様などの技法を取り入れたり、毛糸をよりながら刺して厚みを増す、この厚みからくる温かさは、寒さから身を守るすばらしい知恵がかくされているはずです。北国の寒くて長い夜は編み物に時間を費やし、衣生活の豊かさを楽しみ、ひと編み、ひと編み習ったあの習慣を、現代の子供達にも伝え、教えつぐことこそ、そこに住む人達の生活環境を快適なものにすることでしょう。今までの中央志向的感覚から意識改革をしなければ・・・

以上

